

公衆衛生Books

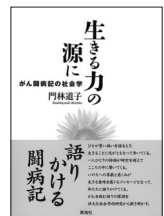
門林道子(著)

『生きる力の源に—がん闘病記の社会学』

●(株)青海社, 2011年, 本体3,200円(税別)

闘病記という患者の声に耳を傾けられるようになったのは、なぜか。闘病記は現代社会で、また書き手や読み手にとって、どのような意味をもつか。医療者と患者・家族がお互いの理解を深めて、より良い医療を協働してつくり上げていく際に、闘病記が架け橋のように重要な役割を果たすという視点から本書を書き上げた。

(本書「はじめに」より)



【目次】

- | | | | |
|-----|---------------------|-----|-------------------------|
| 序 章 | 本書の概要 | 第5章 | 乳がん闘病記をめぐって |
| 第1章 | 闘病記をめぐる社会的背景 | 第6章 | グリーフワークとしての闘病記—家族が書く闘病記 |
| 第2章 | 闘病記の系譜 | 第7章 | テキスト化する闘病記と新たな役割 |
| 第3章 | 「アウェアネス理論」からみるがん闘病記 | 第8章 | 生きる力に—現代における闘病記の意義 |
| 第4章 | がん闘病記と5つの語り | 終 章 | 闘病記という物語 |